

多文化共生事業事例集		年度 R7
団体名	杉並区（東京都）	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業 事業費総額：170千円
事業名	外国籍区民の地域参画促進事業	
概要	外国籍区民と日本国籍区民との交流機会の不足や地域活動への参加のしづらさといった課題を踏まえ、「交流の場の提供」及び「地域活動への参加機会の拡大」を通じて、増加する外国籍区民が地域社会の一員として自然に交流・参画できる環境を整備し、多文化共生の基盤づくりを推進する。	
事業のポイント	事業の詳細	
●交流の不足や地域活動への参加のしづらさといった現状に対し、「交流の場の提供」と「地域活動への参加機会の拡大」を通じて、多文化共生の基盤づくりを進めることを目的として実施。 ●外国籍区民と日本国籍区民が直接交流できる機会をつくり、相互理解を深める。 ●外国籍区民が地域行事に参加し、地域社会の一員として役割を担う経験を提供。 ●外国籍区民の地域参画モデルを区内に広げ、継続可能な仕組みづくりにつなげる。	1. 交流・農業体験事業（ステップ①） ●概要 ・区内の外国籍区民と日本国籍区民が交流できる機会として、交流自治体である山梨県忍野村において「ほうとう作り体験」、山中湖村において「農業体験（ダリアの球根植え等）」を実施 ・日本の食文化・農業文化に触れる体験を共有することで、まずは参加者同士の顔の見える関係をつくるとともに、区外の地域資源を活かした学びの場を提供 ●参加者数：19名 （外国人8名、日本人11名）  2. 地域参画事業（ステップ②） ●概要 ・交流・農業体験事業で収穫した花を活用し、区内の物産展や自治会・町会等のイベントにおいて販売体験を実施 ・これらのイベントには、ステップ①の体験に参加した外国籍区民にスタッフとして参加してもらい、地域活動の一員として役割を担う体験機会を提供 ●参加者数：延べ31名 ・秋まつり：10名 （外国人5名・日本人5名） ・子ども食堂：5名 （外国人2名・日本人3名） ・すぎなみフェスタ（2日間） 延べ16名（外国人9名・日本人7名） 	
事業の背景・目的	●区では令和6年度に「多文化共生基本方針」を策定し、令和7年度以降、方針に基づき多文化共生の一層の推進を図っている。 ●方針策定時の調査では、多文化共生意識の醸成や地域の活性化、日本国籍区民と外国籍区民の交流機会の不足、外国籍区民の地域参画促進などが課題として明らかになった。 ●そこで、区内で増加する外国籍区民が地域社会の一員として自然に交流・参画できる機会を創出するため、本事業を実施	
3. 地域参画の普及啓発事業（ステップ③）	●概要 ・交流・農業体験事業及び地域参画事業の成果を広く共有し、外国籍区民の地域参画への関心を高めることを目的に、地域イベントにおいて、本事業の内容や趣旨についての説明、今後の地域参画の呼びかけを実施 ・外国籍区民の地域参画への関心を高めることを目的に、井草地域区民センター地域懇談会、多文化共生NPO交流会、荻窪地域懇談会など区内の地域住民などが参加する会議など、計3箇所で開催を実施 ●参加者数：延べ126名 ・井草地域区民センター地域懇談会：40名 ・多文化共生NPO交流会：42名 ・荻窪地域懇談会：44名	

事業実施における工夫点・事業の成果等

●事業規模の設定

・参加者同士の関係構築を重視し、段階的な地域参画を目的としていることから、各ステップとも一定の規模に抑え、密な交流が可能となる人数を設定

●交流・農業体験事業の体験先の選定

・区が実施した外国籍区民への聞き取り調査において、「区外に出る機会が少ない」「自然体験の機会がほしい」といった意見が多く寄せられたことに基づき、杉並では得たい体験機会を提供できる地域を選定

●地域参画事業

・外国籍区民が地域社会との接点を持ち、地域参画意識の醸成を図ったとともに、日本国籍区民との新たな交流機会の創出にもつながった

●参加者アンケート結果（オンライン記名式）

・事業への参加を通じた意識変化や満足度等について意見収集

・参加後の意識変化、事業への満足度、印象に残った体験、今後希望する企画内容、地域参画への意欲などについて回答を得た。主な傾向としては、「杉並区への関心が高まった」、「交流の機会が得られてよかった」、「地域活動への参加のきっかけとなった」といった前向きな感想が多く見られ、多文化共生の推進や地域参画意識の醸成に一定の効果が確認された。

今後の課題・将来に向けての展望等

●新たに把握した課題

・アンケート結果から、外国籍区民が地域参画に参加するうえで、やさしい日本語など言語面のサポートの不足、情報の受け取りやすさに関する課題、参加申し込みフォームや周知チラシが日本語のみで記載されている部分があるといった意見が寄せられ、多文化共生の推進に向けて改善が求められる点が示された。

・また、ステップ①からステップ②までの期間が長かった（花の収穫時期を待つ必要があった）ことにより、ステップ②に参加しなかった人も見られた。このことから、実施頻度や日程の設定について、参加しやすい工夫が必要であることが判明した。

●将来に向けての展望

・参加者のうち6名から、次年度以降の企画に関わりたいと意思表示があった。

・来年度は、地域において多文化共生を推進するキーパーソン育成に取り組む予定であり、今回の参加者とともに、外国籍区民が継続的に地域参画できる環境整備を進めていく。

事業担当者の振り返り

本事業を通じて、外国籍区民と日本国籍区民が交流する機会を創出するとともに、外国籍区民が地域活動の担い手として参画する機会を提供することができました。特に、交流・農業体験に加え、区内イベントにおいて販売スタッフなどとして活動していただくことで、参加者同士のつながりが深まり、地域社会との接点づくりにつながったものと考えています。

また、事業の実施を通じて、外国籍区民が地域活動に参加する意欲を持っていることを改めて実感するとともに、言語面での配慮や情報発信の工夫など、多文化共生を推進する上での課題についても把握することができました。

今回得られた参加者の声や事業実施の経験は、今後の多文化共生施策を検討する上で貴重な知見となりました。参加者の中には次年度以降の企画への参画意向を示した方もおり、交流の機会を設けるだけでなく、地域活動の中で実際に役割を担っていただくことの重要性を改めて認識しました。本事業を通じて生まれたつながりを大切にしながら、外国籍区民が継続的に地域活動へ参画できる環境づくりにつなげていきたいと考えています。